

大槻能楽堂 自主公演能

能の魅力を探るシリーズ



能の描く 男たち

人はさまざまな人生を送る。
そして生きざまもさまざまです。
今年のシリーズでは人々ほどの
ような人生を送ったのか、
能に描かれた男たちは難しい
世の中をどの様に生きたのか、
それは運命と言えるものか、
定められた宿命なのか!?
名曲に登場する人々の生き方
を見つめたいと思います。

令和四年

一月二十二日(土)午後二時開演

お話「基経と二条后そして業平」 村上 湛

世阿弥百草本による

能 雲林院 観世鍔之丞

令和四年

二月二十六日(土)午後二時開演

お話「頼政が最期に見たもの」 小田 幸子

狂言 入間川 善竹忠重

能 頼政 上野雄三

令和四年

三月二十六日(土)午後二時開演

お話「人生に迷う青年 悟りとほ」 大森 亮尚

能 邯鄲 粟谷明生

傘之用



大槻能楽堂

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7
TEL.06-6761-8055
<http://www.noh-kyogen.com>

◎主催：公益財団法人大槻能楽堂
初めてご覧になる方にもわかり
やすい解説文(英文解説)を
ご用意しています



◎助成： 大阪市助成



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会



1月22日(土)

お話「基経と二条后そして業平」

村上 湛

休憩

世阿弥自筆本による

能 雲林院

前シテ 尉 観世鏡之丞
後シテ 在原業平
ツレ 二条の後の霊 片山 伸吾
ワキ 蘆屋公光 福王 和幸
アイ 上京の男 茂山千五郎
下京の男 茂山 茂

笛 松田 弘之
小鼓 成田 達志
大鼓 河村 大
太鼓 前川 光長

後見 大槻 文藏
赤松 禎友
観世 淳夫

地謡 浅井 文義
上田 拓司
山本 博通
上野 雄三
浦田 保親
武富 康之
齊藤 信輔
大槻 裕一

『伊勢物語』を愛読する芦屋の公光(きんみつ)は、夢に導かれて物語の地、都・紫野の雲林院を訪れる。折から満開の桜の枝を手折ると、現れた老人に咎められるが、詩歌を引いて互いの気持ちを話すうちに心を通わせる。夢の話の打ち明ける公光に、老人は『伊勢物語』の秘伝を授けようと告げ、自らを在原業平であるとほめかして消えた。その夜、公光が月下の桜の木蔭に見たものは、業平と二条の後の逃避行に隠された物語の真相だった。

後場が、優雅に業平の壺が舞う現行演出とは全く異なる形の世阿弥自筆本。1982年、八世観世鏡之丞のシテで復活初演され再演が重ねられてきた。妖しく美しい『伊勢物語』の世界をダイナミックに演じるのは九世鏡之丞。

2月26日(土)

お話「頼政が最期に見たもの」 小田 幸子

狂言 入間川

大名 善竹 忠重
太郎冠者 善竹 隆司
入間の何某 善竹彌五郎
後見 善竹 忠亮

都から東国へ帰る大名が、武蔵国で大きな川に行き当たる。通りかかった男に、川の名と徒歩で渡れる浅瀬を問うと、男は、この川は入間川といい、渡り瀬はもっと上流だと教える。それを聞いた大名は、従者の太郎冠者の止めるのも聞かずに川に入っていった。いったいなぜ!?

言葉の意味や順序を逆さに言うのが「入間様(いるまよう)」。善竹忠重のシテ(大名)に、兄の二世善竹彌五郎のアド(入間の何某)という、たいへん楽しみな兄弟共演。

休憩

能 頼政

前シテ 尉 上野 雄三
後シテ 源三位頼政 福王 知登
ワキ 旅僧 善竹 隆平
アイ 里人

笛 野口 亮
小鼓 久田舜一郎
大鼓 山本 哲也

後見 大槻 文藏
赤松 禎友

地謡 上野 朝義
齊藤 信隆
上田 拓司
山本 正人
武富 康之
齊藤 信輔
大槻 裕一
上野 雄介

源頼政は、平家全盛の世にあって74歳にして従三位という異例の出世を遂げたが、2年後の治承4年、高倉宮(仁王)を率じて平家に反旗をひるがえす。しかし情勢に利なく、宇治橋での合戦に敗れたのだ。平等院に残る扇形の芝は、頼政が自らを花の咲かぬ埋もれ木にたとえて辞世の歌を詠み、自害して果てた旧蹟だった。初夏の宇治を訪れ、旅寝する僧の枕辺に、武装した出家姿の頼政の亡霊が現れて奮戦のありさまと老武者の無念を語る。

瀬音高き宇治川の味わい深い初夏の風景の中で語られる源三位頼政の生涯。怪物・鶴を退治した伝説があるほど武勇に優れ、歌人としても一流の名を残した男の栄光と挫折を演ずるのは、いよいよ円熟味の増す上野雄三だ。

3月26日(土)

お話「人生に迷う青年 悟りとは」

大森 亮尚

休憩

能 邯鄲 傘之出

シテ 盧生 粟谷 明生
子方 舞童 齊藤 葵
ワキ 勅使 福王 知登
ワキツレ 大臣 喜多 雅人
輿舁 輿舁 中村 宣成
輿舁 是川 正彦

アイ 宿の女主 小笠原由嗣

笛 赤井 啓三
小鼓 荒木 建作
大鼓 守家 由訓
太鼓 上田 慎也

後見 佐々木多門
狩野 了一

地謡 長島 茂
金子敬一郎
内田 成信
高林 呻二
大島 輝久
粟谷 充雄
友枝 真也
佐藤 陽

台後見 粟谷 浩之
高林 昌司

中国の昔むかし、雨のそは降る邯鄲の里。人生に苦悩し、教を求めて旅をする青年・盧生(ろせい)は、宿の女主人に勧められ、粟飯が炊けるまで夢によって悟りを開くという枕で眠りに就く。そこへ楚國の帝位を譲るとの勅使がやって来て、盧生は榮華を極めることになる。

能の手法と斬新なアイデアが駆使され、長編映画のような深い感動を覚える傑作である。喜多流の小書(こがき/特殊演出)「傘之出」は詞章の「一村雨の雨宿り」から着想された、傘を差して登場する風情のある演出。詞章の一部や節遣いが変わり、特にラストシーンの盧生と女主人のやりとりは喜多流ならではの、主張のある粟谷明生の演技と相俟ってどんな世界を見せてくれるのだろう。

(澤月)

入場料金・チケット発売日

●入場料金

席種	前売	当日
S席	6,500円	7,500円
A席	6,000円	7,000円
B席	5,500円	6,500円
学生(B席)	3,300円	4,300円
U-25 25歳以下(B席)	席数限定 1,100円	B席 2,100円 立ち見 800円

サポートクラブ・友の会: 割引特典あり

●チケット発売日 ※当日券は開演の1時間前より販売

公演	サポートクラブ・友の会	一般
1/22 雲林院	11/12	11/22
2/26 頼政	12/14	12/24
3/26 邯鄲	1/17	1/26

会場 大槻能楽堂

大阪市中央区上町A番7号

- 大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車、⑩号出口を出て南へ約300m。(⑩号出口にエレベーター有)
- または谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅下車、⑦号出口を出て北へ約350m。(⑦号出口にエレベーター有)
- 市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ。
※「大阪駅前」から62号系統「住吉車庫」行き、「あべの橋」から62号系統「大阪駅前」行き。

※駐車場はございません。
※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承くださいませ。お問い合わせは、本公演における写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録音は、ご遠慮いただきますようお願いいたします。

チケットご予約・ご購入

●大槻能楽堂ホームページ (発売日10:00~)
<https://noh-kyogen.com/ticket/>

●大槻能楽堂 事務局 (11:00~16:00 不定休)
TEL 06-6761-8055



当公演の新型コロナウイルス感染症対策

出演者・スタッフの衛生管理、感染予防の励行

施設内の消毒と換気の実施

ご来場の方向けに非接触型検温器と消毒液を完備

※マスク着用のご協力をお願いします。※会場でのご飲食はご遠慮ください。